

第 2 回協議会意見を踏まえた修正内容について

NO	発言者	質問・意見	回答	素案修正内容（修正後頁）
1	琉球大学 神谷委員	・小中学生等のクルマによる送迎に関しては、学校教員にも公共交通を利用する意義を強く伝えることが重要である。	(中村会長) ・教育委員会を含め理解していただくこと、関係者一丸となって取り組むことは重要である。	・P101 (P111) 2行目 クルマ社会からの脱却に向け、 教職員や保護者を含めた学校関係者全員で、対策の意義や必要性の理解を深めることが重要である。このため、各学校における児童・生徒は勿論、教職員、保護者等を含めたMM施策を継続的に進める。
2		・データ連携に関しては、国の振興審議会でもその必要性が言われていた。データがあるのにデータが出て来ないとか、感覚論による議論ではなく、データに基づいてしっかり計画を作り、データに基づいて政策の効果を検証することが重要である。	・データ連携に関しては関係者間で必要な共有をして、その上で可視化して評価となる。実証実験などをデータで評価して上手いかわないと批判されるが、至らない点があれば次の課題を出せばいいというスタンスも重要である。	・P105 (P115) 下から3行目 連携化に向けた取組を進める。 公共交通分野においてもデータに基づいた計画づくりや効果検証への活用を進めるとともに、公共交通の利用促進に向けた研究・検討や新たな・・・
3		・例えば国際通りの荷捌き、空港の一般車による混雑、タクシーや観光バスの停車による路線バスへの影響等、他の影響でバスの定時性が担保されていない点を書き込んでいただければ思う。	・バスの走行を支障する点は、この計画でもきちんと言っていくことが重要である。	・P65の前 (P69) 路線バスの定時性に関する現状を追加 ・P71(P79)課題の① 公共交通の定時性確保に関する課題を追記
4		・都市計画の中でも市街化区域の拡大の話をよく聞くが、今後都市圏内で公共交通が不便な地域で人口が増加していないか注視していくべきだと思う。	・欧米の事例でも例えば建築許可と公共交通の関係がしっかりしている。市街化区域を増やすことはバスサービスも準備することを計画に盛り込むことが重要で、バスに不便な市街地は増やさないことが重要である。	・P29 (P37) 公共交通の利便性が高い土地利用を誘導することの重要性を追加 ・P71 (P79) 課題の① 公共交通と都市政策との連携を課題として追記 ・P93(P103) 公共交通の利便性が確保された周辺まちづくりを進める旨追記

NO	発言者	質問・意見	回答	素案修正内容（修正後頁）
5	琉球大学 池田委員	・都市間交通を結ぶ交通の中には、基幹バスや高速バスが重要ではあるが、長期的な視野も入れると鉄軌道の記述も含めることが重要である。	（事務局） ・P10の総合交通体系基本計画の中で鉄軌道が示されており、構想段階ということで素案では示していないが、本文の中でどのように記載できるか検討する。	・P78（P88）2ポツ目4行目に以下を追記 また、沖縄鉄軌道の構想段階からの進展に向けた取組を進める。
6		・LRTの実現は沖縄の道路事情を考えると難しいと考えている。LRT等として代表的に記載しているのが気になる。	（事務局） ・LRTについては、総合交通体系基本計画の中でも記載されており、取り組む予定もあることから記載している。	・P83（P93）2ポツ目最下段及び3-3 LRTの表現を新たな公共交通システムに修正し、施策3-3についても、モノレール延伸や新たな公共交通システムに修正
7		・観光二次交通結節点として何故北谷なのかの背景が示されていないのではないかと。	（事務局） ・関係部局と調整しながら整理していく。	・NO8～10に記載
8	中村会長	・一般的には地域公共交通計画には都市間交通は入らないが、沖縄では那覇～名護間など都市間移動は日常的な範囲なので、前提としてバスによるネットワークが重要であること、そして長期的には鉄軌道という流れで記載する方法があるのではないかと。		・NO5に記載
9		・LRTは道路空間にどのように入れていくかは様々な議論があるが、新たな公共交通は必ずしもLRTだけではないので表現方法は工夫できるのではないかと。		・NO6に記載
10	沖縄県 文化観光スポーツ部 川上委員	・観光客の移動手段の課題があまり触れられていないが、那覇空港ではレンタカー受け渡しや送迎で混雑しているため、レンタカー受け渡し場所の分散化が重要と考えている。		・P28の後（P29～P32） 観光交通に関する現状と課題を追加・修正（観光客の利用交通手段、那覇空港での混雑、観光客の訪問先等）
11	沖縄県 文化観光スポーツ部 川上委員	・北谷は、アメリカンビレッジなど観光客の目的地でもあり、観光の目的先でレンタカーに乗り換えてもらうこと、加えて北谷町でも美浜駐車場を結節点として計画していることから、北谷から取り組むことを考えている。		

NO	発言者	質問・意見	回答	素案修正内容（修正後頁）
12		・計画素案への課題の記載方法については、庁内で調整していきたい。		・P71（P80⑤） 観光交通に関する課題を加筆修正
13	琉球大学 池田委員	・北谷の南には伊佐もある。また、西普天間でも開発が進められている。今後交通渋滞の発生も想定されるため、北谷以外の伊佐など周辺地域も念頭に考えて欲しい。	（文化観光スポーツ部） ・記載方法については庁内でも調整していく。	・P93（P103）1ポツ目3行目～ 基幹的な公共交通及び地域の公共交通に必要な交通結節点の検討・・・を追記
14	中村会長	・観光については、施策へのつながりがわかるように課題の書き方を工夫していただきたい。		・NO10、NO12に記載
15	琉球バス交通 小川委員	・現在補助金をいただきバス路線を維持するため事業者は大変な努力しているが、地方を活性化するための記述はどのあたりにあるのか。	（事務局） ・P86の連携交通会議では、県と北部、中部、南部の各圏域市町村、バス事業者で利便性の高いネットワークについて議論している。基幹軸では複数の並走するシステムの効率化について、地方では必要な区間の維持やクルマからの転換等について議論している取組がある。また、P93では交通まちづくりとして各一次生活圏での取組を記載している。	・N18に記載
16		・人手不足については、4社運転手の年齢構成で見ると60歳以上が37%で、一方で30代10%、20代が2%となっている。これは、県内二種免許取得者も同様な年齢構成であり構造的な問題を抱えている。バス運転手が構造的に確保できるよう取組を切迫感持ってお願いしたい。	・人手不足については、P107で記載しているが、現在の支援策以外にも今後全国の取組事例も見ながら次年度以降効果的な取組あれば追加していきたい。	・P107（P118）1ポツ目加筆修正 今後加速する運転手の高齢化による一層のリソース不足といった喫緊の課題を十分踏まえる必要がある。このため、新たな人材確保のための取組や人材確保に必要な支援については、県内外の取組事例も参考にしながら継続的に検討しながら実施していく。
17		・観光二次交通に関連するが、那覇から本部まで高速船が1日2往復ある。観光客が6～7割であるが、業務等の移動ニーズもあるので、海上バスの位置づけもあるのではないか。そのためにも利便性増進があるのでと考えているので検討をお願いしたい。	・那覇～本部間の海上交通については、本島内の移動が分担していることや、交通円滑化にも関係することから、その位置づけ等について検討していきたい。	・海上交通については、次年度以降の計画見直しの中で検討していく。

NO	発言者	質問・意見	回答	素案修正内容（修正後頁）
18	琉球バス交通 小川委員	・北部圏域では、将来的なネットワークを検討しているとの話も聞いている。バス事業者も地域の足を確保するために頑張っているので、当面のバス路線をどう維持していくかの視点が重要ではないか。	（事務局） ・各圏域連携交通会議では、バス減便や窮状を情報共有して危機感以て、できるだけ早くネットワークや結節点を議論していく方向で情報共有したところであり、記載内容は加筆してきた。 ・また、P92でも路線バスがないところでの自治体のコミュニティバスと路線バスとの連携等検討を進めている。	・P22（P22）の2） 2 ポツ目に加筆修正 地方部の路線バスについては、運転手不足や収益確保が一段と厳しさを増す中、事業者が収益を確保できる形で公共交通を担う構造が難しくなっているため、地域における様々な関係会議体の取組等とも十分連携しながら、必要な見直しや様々な工夫を行いながら、バス路線の確保・維持のための努力が必要 ・P106(P116) 1 ポツ目を加筆修正 路線バスについて、バス事業者の運転手不足や収益確保が一段と厳しさを増す中、特に地方部においては事業者が収益を確保できる形で公共交通を担う構造が難しくなっている。このため、各圏域連携交通会議や沖縄県生活交通確保維持協議会の取組等とも十分連携しながら、バス路線の確保・維持のための事業推進に引き続き努めていく。
19	中村会長	・他地域でも高速船を活かした事例はある。全体の体系の中で可能な選択肢であるので上手くいれることを検討してほしい。		・NO17に記載
20		・二種免許は、取得を推進する施策について何があるかを考えていただきたい。		・NO16に記載
21		・当面の路線バスの確保・維持については、今重要な路線バスを守っていくこと、そして必要な見直しを行っていくというスタンスは計画の頭に記載しておいて欲しい。		・NO18に記載

NO	発言者	質問・意見	回答	素案修正内容（修正後頁）
22	中村会長	・必要な見直しや確保・維持のためには、小さな車両に変更したり、ダイヤモンドにしたり、福祉送迎車両とかモビリティ資源の総動員などあるが、人々の移動の選択肢を確保することが何よりも重要なことである。		<p>・P71（P80の⑥）を加筆修正 利用者減少による交通事業者の経営環境は厳しさを増しており、行政による補助額も増加の一途をたどっている。このため、特に地方部を中心としたバス路線の確保・維持するため、地域における様々な関係会議体の取組等とも十分連携しながら、必要な見直しや様々な工夫を行うことが課題である。</p> <p>さらに、将来にわたり県民、交通事業者、行政等社会全体で持続可能な公共交通のあり方を考えていくことが大きな課題であり、公共交通の効率化や再構築、公共交通の利用促進、公共交通を確保・維持するための仕組み等、幅広い視点から計画づくりに取り組むことが重要である。</p> <p>・P72（P81）に④を追加 特に地方部においては、現状における地域住民等の移動の選択肢を確保するためのバス路線の確保・維持に努め、さらに全ての関係者が協力して効率的で持続可能な地域公共交通を導く計画づくり</p>
23	沖縄総合事務局 開発建設部 坂井委員	・評価指標の公共交通利用者数は、路線バスが年間値でモノレールが1日値になっているので揃えるか、その旨記載した方が良いのではないかと。	（事務局） ・確認して修正する。	<p>・P121（P133）を修正 年間利用者数に統一</p>
24		・県民一人当たりの路線バス利用回数は、1.35回／年ではなく、13.5回／年となるので確認してほしい。	・確認して修正する。	<p>・P121（P133）を修正 19.6回／年（R1年度）、15.9回（R4年度）に修正</p>
25		・今後2024年問題もある中で、運転手の待遇を上げなければならないため、コストは増加するのではないかと。このため、需要は横ばい、公的資金は下げる、黒字化を目指すといった目標のバランスは悪くないか。	・P13に収支を示しているが、コロナ前は黒字になっているので、こちらを意識して黒字化の目標設定している。	<p>・P121（P133）を修正 コロナ前のR1年度が収益プラスとなっているため、R10年度需要の目標をR1年度以上に修正</p>
26		・令和元年の黒字化を目指すのであれば、利用者数も令和元年並みにしないといけないのではないかと。	・確認して修正する。	<p>・P121（P133）を修正 R10年度需要の目標をR1年度以上に修正</p>

NO	発言者	質問・意見	回答	素案修正内容（修正後頁）
27	沖縄県ハイヤー タクシー協会 大城委員	・タクシー利用者の令和3年度は、コロナの影響があるので最新の令和4年度と比較してはどうか。		・P121（P133）を修正 最新の数値をR4年度に修正
28	琉球バス交通 小川委員	・路線バス利用者は、現在でも利用客は1割程度戻ってきていない。特に通勤目的の利用者が戻っていない。		
29	中村会長	・P121の評価指標は、標準指標なのでマストとなるが、現状の基準値をどうするかは、コロナ前、コロナ中の2つの実績を出すことが重要である。		・P121（P133）を修正 現状の基準値をコロナ前のR1年度と最新値のR4年度を記載
30		・その上で、目標は控えめではなく、基本的には高めの目標値を設定してほしい。		・NO25,26に記載
31		・そして目標値には根拠を持つこと。例えば収支黒字のためにはこのくらい利用者、コストが増加するならこのくらい利用者となることが重要である。		・（P131～P132）に追記 主な評価指標の推移と目標に関する考え方を記載
32		・すぐに手が届く目標値ではなく、少し背伸びした目標にして、その目標を目指すには誰が何をすることがわかるようにすることも重要である。		・（P131）の下から3行目に追記 これらの評価指標の目標値の達成に向け、全ての関係者が24の施策・事業を確実に推進することは勿論、特に強力で推進する施策・事業についてはスピード感を持って計画期間内の事業拡充を含め取り組んでいく。
33		・計画策定市町村数は、各市町村計画を作られるのだから、敢えて指標としてなくてもよいのではないか。		・P122（P134）を修正 計画策定市町村数は削除
34		・自動車保有台数の伸びについては、自動車はどう使われているかを示す距離の指標やその代理変数となるガソリン消費量の方が大事である。		・P122（P134）を修正 自動車保有台数の伸びに変わり、通勤・通学時の利用交通手段割合を指標に設定

NO	発言者	質問・意見	回答	素案修正内容（修正後頁）
35	沖縄総合事務局 運輸部 村上委員代理	・現状のバス路線の確保・維持については、どういところ ろが大事である等、留意していく旨の記載をお願い したい。	（事務局） ・引き続き運輸部とも相談させていただきながら、表現 については検討していく。	・本資料P5,P6の加筆修正に加え、（P72,P73）にR5年度 補助対象路線を追記、さらに（P117）にR6年度地域公共交 通確保維持事業対象系統を追記（路線別の役割等は巻末 資料（P137）に追加）
36		・リ・デザイン検討会を開催しており、様々なライフス タイルと交通について議論等をしている。通学、通勤に 関する施策を含めて今後とも連携していきたい。	・記載されている施策は、様々な関係者との連携が必 要であり、今後とも連携して取組んでいきたい。	
37		・各圏域のネットワークの具体化は重要である。観光 や結節点など様々な分野のことも考えていくことが重 要であり、運輸部としても連携していきたい。	・連携交通会議は、今年度から始まった試みである が、関係者と連携しながらスピード感を持って取り組ん でいきたい。	
38		・E V等環境負荷軽減の視点につながる施策につい ても記載していただきたい。	・E V等の表現は今後調整させていただきたい。	・（P102）3行目の交通・他分野間の共創による持続可能な 地域公共交通として記載済
39	沖縄県ハイヤー タクシー協会 大城委員	・人材育成は死活問題であり、既存支援事業大変 助かっている。		
40		・データ連携の部分では、タクシーの配車アプリが、効 率的な配車による渋滞緩和につながっている部分もあ るため、表現については工夫いただきたい。		・P105（P115）に追記 ・・・ タクシーの配車アプリ やMaaS普及に向けた取組が進められて おり・・・
41	豊見城市 嘉川委員代理	・本市では、次年度から新しい公共交通システムの検 討を予定しており、本計画でも位置づけが重要と考え ているが、P83の“LRT等の新たな公共交通”の表現 で適切かどうかを確認させていただきたい。	（事務局） ・特定のシステムに限定されているとのご意見もあつたの で、素案の記載方法については、今後調整を進めてい きたい。	・P83（P93）2ポツ目最下段及び3-3 LRTの表現を 新たな公共交通システム に修正し、施策3-3につ いても、モノレール延伸や 新たな公共交通システム に修正
42		・資料4-1NO12 高速バス拡充の修正がP85の中 では反映されていないので、修正お願いしたい。	・今後修正していく。	・P85（P95）修正 施策5 高速バスの 拡充及び 利便性向上